

動物の診察室から

○ 75 ○

連休中の待合室から、毎日の通院してくる患者さま、また話の話し声が聞こえてきます。休日でも朝1時間ほど時間を決めて、継続の患者さまの治療をします。1時間と短い時間なので、いつも会うこととなる患者さま同士、顔見知りになるのです。



治療が終わると猫パンチを飛ばすプリンちゃん



これから10年

頑張る姿が主人励ます

皆さん動物が大好きです。お互いの動物たちのことを話したり、動物の顔を見て、頑張っていると声を掛けたりしています。

前にコラムで書いた、コウグリ好きのチョコちゃんも24歳になり、アヤちゃん日誌のアヤちゃんも頑張って通院しています。

そんな中に三毛猫のプリンちゃんもいます。14

カゴを載せてくるのでした。「チョコちゃんは24歳ですごいですね」とも話されました。私は「チョコちゃんが24歳ですか、プリンちゃんはあと10年ですね。これから10年頑張るって自転車でプリンちゃんを連れてきてください」と答えました。お母さまは「とんでもない、あと10年なんて、私が生きていないかもしれない」。私は「そんなことはないですよ、お母さん、あと10年なんて、私が生きていないかもしれない」。私は「そんなことはないですよ、お母さん、あと10年なんて、私が生きていないかもしれない」。

お母さま、毎日ご苦労さまです。プリンちゃんには感謝していると思います。プリンちゃんのために、お体を大事にされて、プリンちゃんが頑張る限りプリンちゃんを連れてきてください。

い、あと10年なんて、私が生きていないかもしれない。私は「そんなことはないですよ、お母さん、あと10年なんて、私が生きていないかもしれない」。

予防注射を受けにくる元気な動物たちもいます。でも休日の待合室の動物たちは、みんな重い病気の子たちです。飼い主の方の愛情を感じて頑張っているのだと思います。

草村 正人 (獣医師・新潟市)

＝第2・4木曜掲載＝